

ひめだ高松ニュース

NO.1003

'14.4.2

はや4月になりました。

紀三井寺とお城の桜が満開になっていくとテレビが教えてくれました。お城のそばを通ると、平日にも開けられず、お花見にたくさん集まっています。風がまだ少し冷たいのと季節の変わり目のため、健康にはご注意ください。

13年度市政世論調査(第6集)

13年度市政世論調査概報(第6集)が届きました。今回は、地域の助け合い、消防・防災、防犯対策、消費者意識、国体・全国障害者スポーツ大会、男女共生、男性の育児参加、健康、ス

地域の助け合い

地域の助け合いについて、支援や協力ができるとは何かの問いに、あいさつや安全確認の声かけ(38.2%)、話し相手や相談相手になること(26.1%)、二み出し(20.8%)、子どもの登下校の見守り(16.1%)、玄関前などの掃除・庭の手入れ(16%)となっています。

地域住民から受けた支援や協力は、災害時の避難支援・安全確認(24.7%)、あいさつや安全確認の声かけ(21.6%)、防犯のための巡回(21.3%)、話し相手や相談相手(14.%)

ことは、住民同士の普段からの付き合い(78.5%)、高齢者や子どもなどへの日寄的声かけ(48.2%)、集まる場所(37.2%)。活動が必要ですが、共産党自身が風を起さず、真実を知らせるしかありません。地域で職場で団体で、共通する課題で文字も使って映像でもSNSでも工夫して本音のことも知らせることに執念を持ちたいわけです。全国数十万人の同志とその周りの人に宣伝マン、赤旗のセールスマンになってもらって日本中からこのつとを揺り動かせば次の選挙であつと驚く結果ができるかも。

かとう直人

共産党の風を起すには情勢は「自民VS共産」時代、その他の政党は自民党の補完勢力で自共対決が浮き彫りになったと。確かにそう思いたいのですが、たとえば新聞の世論動向をみると、自民支持率が20%くらいで、公明が4%、共産は2.3%なんて出ていたりします。

フリーの人々



8億円の借金の使い道
酒のホで大きい熊手を買ったが

3月30日 しんぶん赤旗
渡辺代表 8億円説明
熊手業者 怒った
借金で買った
なんて料じゃない

せいぜい高くても30万~50万円くらい庶民の牛モンにすぎない
答えてくれる赤旗はエライヤ



かとう直人 県議予定候補

13年度市政世論調査 市政一般の重要項目

13年度市政世論調査で、和歌山市政一般の重要度として「非常に重要」と「重要」の計の割合ベスト10は、

- ①消防・救急救助の体制(79.3%)
- ②地震や風水害などの災害に対する安全性(78%)
- ③暴力や犯罪に対する防犯体制(76%)
- ④基幹道路や生活道路の充実(72.4%)
- ⑤交通安全に対する取組(72.2%)

- ⑥医療・保健サービス(71.2%)
- ⑦雇用対策や労働環境の充実(70.7%)
- ⑧通勤・通学・買い物などの日常生活の便利化(69.8%)
- ⑨公園や下水道などの生活環境の充実(68.5%)
- ⑩中心市街地の活気(67.9%)となっています。

重要率の上位5つについて年齢別にみると、18〜19

歳は「資源」のみのリサイクル、「80歳以上は」高齢者、障害者に対する福祉サービス、「介護保険や年金、国民健康保険などの社会保障サービス」が他の年齢層より上位に位置しています。

日本共産党 和歌山県支部の 新事務所建設基金にご協力ください。

いくらでも結構です。募りたくては私、ひめだまでご連絡ください。よろしくお願ひします。

こんなことは日本共産党が

消費税に頼らない道！
日本共産党は、消費税増税に反対することにも、消費税に頼らないで社会保障の財源を確保し、財政危機打開に踏み出す別の道を探求しています。

それは、税財政と経済の民主的改革を同時にすすめる道です。

第一は、所得が1億円を超え、層は逆に税金の負担が軽くなっていることや法人税の実質負担率が中小企業は25%なのに大企業は14%にすぎないなどの不公平な税制を改めます。大型開発や軍事費、原発推進予算

などで歳出の増大にメスを入れ、このことも当然です。

第二は、賃上げをはじめ、国民の所得を増やす政策でデフレ不況を打開します。経済を内需主導で健全な成長の軌道にのせれば税収も増加します。この水増しの改革に踏み出せば、増税をせず消費税廃止の展望も開けます。

潮流

(14.4.1) 徳川8代将軍吉宗は「享保の改革」によって江戸幕府の財政を立て直しました。

年貢を厳しく取り立て、勘定奉行だった神尾春央は「胡麻の油と百姓は絞れば絞るほど出るものなり」という言葉を残しています。▼むかし百姓、いまは国民、としてもいってしょう。17年

ぶりの消費税アップに医療や介護の負担増。さらにガソリンや公共料金の値上げ... 給料は上がりすぎ、新しい年度に、生活の不安は募るばかりです。▼消費税が導入された89年4月、当時の渡辺美智雄・自民党政調会長はいいました。「消費税は本産と同じ。小さく産んで大きく育てる」。8億円が話題の、みんなの党渡辺喜美代表の父親が、予言、したとおり、3%から5%、そして8%に。財界が示したレールに乗った際限のない増税です。▼まるで打ち出の小槌のようには財源を生み出す税。しかしそれは、所得が低い層ほど負担が増す最悪の不公平課税です。庶民だけを痛めつける仕組みを、悪魔の税制と呼ぶ専門家もいるほどです。▼導入当時、竹下登首相は「9つの懸念」を示し、その解消に努めると口を閉じました。所得の再分配機能を弱める不公平感を増す、税率引き上げが中堅になる、物価を引上げ、地方財政に影響する...。ところが何も変わっていません。▼くらくらとした経済を壊し、財政危機をさらに深め、日本社会の格差をいっそうひろげる消費税。国民のために何一つなっていない、た消費増税の道を、このまま既定路線のようにはまかせないわけにはいきません。

赤旗 日刊紙は 3,400円/月